

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 チームマネジメントの基礎知識		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 諸見里 安知	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 2年次 後期					
〔授業の目的・ねらい〕 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。					
〔授業全体の内容の概要〕 介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基礎的な理論を概説するとともに、講師の経験事例の紹介などを盛り込むことで、より実践現場で活用できる知識や手法を理解する内容とする。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 1. チーム形成における自分自身の思考や行動の自律の重要性を捉えることができる。 2. リーダーシップ及びフォロワーシップの定義、役割を理解できている。 3. 人材育成における代表的なアプローチ方法について、その定義や概要を述べることができる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	科目のねらい・学習ガイダンス			科目の意義と目的(ねらい)を理解する。	
2	介護実践におけるチームマネジメントの意義			人間の特徴と生活の営みを理解する。	
3	ヒューマンサービスとしての介護サービス			介護サービスとほかの職業との違いについて考える。	
4	介護現場におけるチームマネジメントの取り組み①			事例からチームマネジメントの概要を理解する。	
5	介護現場におけるチームマネジメントの取り組み②				
6	ケアを展開するためのチームマネジメント①			ケアを展開するために必要な「チーム」について考える。	
7	ケアを展開するためのチームマネジメント②			チームでケアを展開するための「マネジメント」について考える。	
8	ケアを展開するためのチームマネジメント③			チームの力を高める、最大化するための「マネジメント」について考える。	
9	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント①			介護福祉職のキャリアと求められる実践力について学ぶ。	
10	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント②			キャリアデザイン及び自己研鑽に必要な姿勢について考える。	
11	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント③			人材育成の視点、スーパービジョンの機能について理解する。	
12	組織の目標達成のためのチームマネジメント①			介護サービスを支える組織の「構造・機能・役割」について学ぶ。	
13	組織の目標達成のためのチームマネジメント②			介護サービスを支える組織の「理念」について考える。	
14	組織の目標達成のためのチームマネジメント③			介護サービスを支える組織の「委員会制度等」について考える。	
	科目試験			科目試験(筆記試験)	
15	科目試験の振り返り・科目のまとめ			科目試験の振り返り及び解説を行い、修了時の達成課題(到達目標)を振り返る。	
〔使用テキスト・参考文献〕 ・最新・介護福祉士養成講座 1 「人間の理解」中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 出席・授業への取り組み姿勢 30%、科目修了筆記試 30%、課題レポート提出 40%を総合的に評価する。	
〔参考文献〕 ・自主作成資料 ・参考資料					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 沖縄の言語と文化		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 小浜 司	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 2年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 日本の中でも特殊な言語と文化を持つ沖縄の、相互理解を深めることを目的とした講義					
〔授業全体の内容の概要〕 沖縄の地理と歴史を学び、独特な文化、例えば空手、陶器、芸能などを掘り下げる授業展開とする。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 沖縄の言語と文化の基礎的知識を理解し、特殊性を相手に伝えられる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	沖縄の地理と歴史			沖縄文化の概要と言語の特殊性の概要	
2	文化の中の沖縄語			沖縄語文法と実践	
3	沖縄語と芝居			芝居に見る沖縄語の基礎知識と応用	
4	沖縄音楽の基礎			沖縄音楽の歴史	
5	三線の実演			楽譜「工工四」の読み方 三線の実演	
6	三板の実演			沖縄オリジナル「三板」の実演	
7	沖縄の映画 1			戦前の沖縄映画鑑賞	
8	沖縄の映画 2			岡本太郎の沖縄	
9	組踊の基礎			接待の花形「組踊り」について	
10	琉球舞踊の鑑賞			王朝舞踊から雑踊りへ(明治～現代)	
11	民謡の世界			琉球民謡の中のヒロイン	
12	空手文化について			「手」とは何か？	
13	陶器			壺屋焼の歴史	
14	染色			紅型、芭蕉布、絣文化への誘い	
15	科目のまとめ			沖縄文化の独自性	
〔使用テキスト・参考文献〕 自主作成資料・参考資料				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 筆記試験、レポートを総合的に評価する。	
〔参考文献〕 視聴覚教材(CD・DVDなど)					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 介護旅行概論		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 小林 学美	
〔授業の回数〕 8回		〔時間数〕(単位数) 15時間(1単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 2年次 後期					
〔授業の目的・ねらい〕 ノーマライゼーションの理念に基づき『その人らしい』人生を支援する重要性を学ぶ。また、沖縄という観光地の特色を活かし、介護を必要とする人たちの観光や旅行の知識を持ち、より実践的な旅行支援、外出支援の在り方と方法を理解する。					
〔授業全体の内容の概要〕 精神保健福祉士としての退院促進と地域移行の方針に準じたQOLの向上に伴う外出支援の実務経験、また旅行に関する国家資格・総合旅行管理者としての旅行手配や長期滞在時の相談業務、旅行の同行支援、外出時のバリアフリーに関する相談経験などを活かし、時代のニーズに応えられる旅行の知識をもったプロフェッショナルな介護福祉士を育成する。 世界や日本、沖縄の観光客の動向、バリアフリー環境の確認、外出時に安心してサポートを依頼される介護福祉士を養成するために、視点、知識、行動を獲得することを目的とする。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 旅行の知識を備えた介護福祉士として施設内外でのニーズに応えられる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	ノーマライゼーションの理念について			ノーマライゼーションの理念の理解し、医療・福祉の地域移行の意義を理解する 日本国憲法 13 条(幸福の追求権)、14 条(誰も差別されない権利)を理解する。	
2	外出支援の意義			「その人らしい」暮らし方、生き方について考え、その支援について理解する。	
3	旅行の定義			旅行の目的や手配に関する知識を身につける 世界の時間(日本の基準時間と世界標準時間)、世界の地理、言語、気候、文化などの理解をする。	
4	旅行に必要な知識と準備			日本と沖縄の地理、気候、文化などを理解する。 世界と日本、沖縄の交通インフラとバリアフリー状況について理解する。	
5	外出や旅行における障壁の理解			観光客の推移と、障害のある観光客数の増加を理解し、必要な支援体制を考える。 世界と日本、沖縄の福祉環境と、突然の事故や災害時のバリアフリーを考え、意識の比較を検証を行う。	
6	旅行に関する手配の理解			旅行の手配につて知識を深める (目的、交通手段、宿泊先、立ち寄り先など)	
7	旅を楽しむ 企画発表			グループ旅行を企画・支援について考える 旅行の企画・発表	
8	課外授業を通しての発表・まとめ			【発表】 「環境における障壁」の発見と「解決のための行動計画」の作成 支援者としての心構えの確認	
〔使用テキスト・参考文献〕 自主作成資料				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 出席日数、授業態度、レポート、実践報告を総合的に評価する。	
〔参考文献〕 「障害者旅行ハンドブック」学苑社他					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 介護の基本 III		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 照屋 裕子	
〔授業の回数〕 30回		〔時間数〕(単位数) 60時間(4単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 2年次 通年					
〔授業の目的・ねらい〕 利用者や家族、介護者の安全を実現・確保するためのマネジメントのあり方、理念や理論、知識及び生活支援技術や介護過程・介護実習へ向けた学習など他科目を関連させながら、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。					
〔授業全体の内容の概要〕 介護における安全確保の視点からの知識・技術・事故防止や安全対策、感染症対策、緊急時の対応、介護従事者の健康管理等について施設や住宅での具体例、実習体験をもとに展開する。また、実際の援助場面をイメージできるよう演習等を織り交ぜながら進行する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 安全の概念を予防、自立の点から考察しマネジメントのあり方を理解し説明できる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	オリエンテーション			学習ガイダンス・他教科とのつながりについて	
2	介護における安全確保			・介護従事者の安全	
3				・リスクマネジメントについて	
4				・法的安全管理について	
5	安全確保の方法について			・リスクマネジメント事例検討	
6				・身近なリスクマネジメントについて	
7					
8	事故防止、安全対策の基礎と実際				
9					
10					
11					
12					
13				・安全対策なの？身体拘束なの？	
14				・高齢者虐待防止法の概要について	
15					
16					
17					
18	感染管理について			・感染管理のための方策	
19				・生活の場の感染対策について	
20				・高齢者介護施設と感染症対策	
21	感染症の基礎知識				
22					
23				・感染症発生時の対応	
24				・その他の感染症対策	
25	ひやりハット事例分析				
26					
27				・ひやりハットの概要について	
28				・失敗事例からみるリスクマネジメント	
29				・ひやりハット事例検討会	
30	科目のまとめ			学習のまとめと総合評価を行う。	
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 4「介護の基本 II」 中央法規出版			〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 授業参加度、課題レポート提出等を総合的に評価する。		
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 生活支援技術Ⅳ		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 前泊 秀斗	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(1単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 2年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。また、1年次で学習した基本介護技術をベースに、心身機能障害に応じた生活課題の理解、実践的な生活支援技術を修得する。					
〔授業全体の内容の概要〕 介護を要する対象の方は、疾病や障害、加齢など生活の不便さや様々な生活課題を抱えている。対象者の理解並びに状態や状況に応じた支援方法を概説する。あわせて内部障害および高次脳機能障害など医療保健分野の知識を深める内容とする。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 1. 心身機能の障害や症状(内部障害・高次脳機能障害など)の基礎的な知識を理解している。 2. 心身機能の障害に応じた基礎的な生活支援技術を理解し、支援方法を考えることができる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1 ----- 2	内部障害(肝臓機能障害)に応じた介護			肝臓機能障害の特性・支援方法・留意点を理解する。	
3 ----- 4	内部障害(心臓機能障害)に応じた介護			心臓機能障害の特性・支援方法・留意点を理解する。	
5 ----- 6	内部障害(呼吸器機能障害)に応じた介護			呼吸器機能障害の特性・支援方法・留意点を理解する。	
7 ----- 8	内部障害(腎臓機能障害)に応じた介護			腎臓機能障害の特性・支援方法・留意点を理解する。	
9 ----- 10	内部障害(膀胱・直腸機能障害)に応じた介護			膀胱・直腸機能障害の特性・支援方法・留意点を理解する。	
11 ----- 12	内部障害(小腸機能障害)に応じた介護			小腸機能障害の特性・支援方法・留意点を理解する。	
13 ----- 14	内部障害(HIV による免疫脳障害)に応じた介護			免疫障害の特性・支援方法・留意点を理解する。	
15 ----- 16	高次機能障害に応じた介護			高次脳機能障害の特性・支援方法・留意点を理解する。	
	科目試験			科目試験(筆記試験)	
14 ----- 15	科目試験の振り返り・科目のまとめ			科目試験の振り返り及び解説を行い、修了時の達成課題(到達目標)を振り返る。	
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 8「生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:出席・授業への取り組み姿勢 20%、科目修了筆記試験 40%、課題レポート提出 40%を総合的に評価する。	
〔参考文献〕 自主制作資料・参考資料					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 生活支援技術 V		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 喜如嘉 翼	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(1単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 2年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。また、1年次で学習した基本介護技術をベースに、心身機能障害に応じた生活課題の理解、実践的な生活支援技術を修得する。					
〔授業全体の内容の概要〕■実務経験豊富な専門講師を招聘しオムニバス形式で運営する科目である。 介護を要する対象の方は、疾病や障害、加齢など生活の不便さや様々な生活課題を抱えている。対象者の理解並びに状態や状況に応じた支援方法を概説する。また総合的な演習(聴覚・視覚障害など)を通して具体的なコミュニケーション技法や支援方法を学習する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 1. 心身機能の障害や症状について理解し、状況に応じた生活支援方法を考えることができる。 2. 心身機能の障害に応じた基礎的な生活支援技術を身につけて、実践に活かすことができる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは			科目の意義と目的(ねらい)・生活支援技術の意義と介護の専門性を理解する。	
2	肢体不自由に応じた介護			肢体不自由の特性・支援方法・留意点を理解する。	
3	重複障害(盲ろう)に応じた介護			重複障害の特性・支援方法・留意点を理解する。	
4	重症心身障害に応じた介護			重症心身障害の特性・支援方法・留意点を理解する。	
5	知的障害に応じた介護			知的障害の特性・支援方法・留意点を理解する。	
6	精神障害に応じた介護			精神障害の特性・支援方法・留意点を理解する。	
7	発達障害に応じた介護			発達障害の特性・支援方法・留意点を理解する。	
8	難病に応じた介護①			ALS・パーキンソン病の特性・支援方法・留意点を理解する。	
9	難病に応じた介護②			悪性関節リウマチ・筋ジストロフィーの特性・支援方法・留意点を理解する。	
10	聴覚障害に応じた介護			□オムニバス式 視覚障害の特性と生活上の困難と制約を理解する。	
11	聴覚障害に応じた介護の実践				
12					
13					
14	聴覚障害分野のコミュニケーション技法とその実践			□オムニバス式 手話を始めとする聴覚障害分野のコミュニケーション技術や福祉用具・ツール、その他支援方法を学ぶ。	
15					
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 8「生活支援技術 Ⅲ」 (中央法規出版)				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 出席 10%、授業への取り組み姿勢 20%、授業内課題・レポート等提出 70%を総合的に評価する。	
〔参考文献〕 自主制作資料・参考資料					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 生活支援技術 VI		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 恩河 ひとみ	
〔授業の回数〕 30回		〔時間数〕(単位数) 60時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 2年次 通年					
〔授業の目的・ねらい〕 1.介護サービスを利用する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う。 2.自立支援の観点から介護実践できる能力を養う。 3.利用者のみならず、家族等に対する精神的支援や援助のために、実践的なコミュニケーション能力を養う。 4.多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる能力を養う。 5.リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。					
〔授業全体の内容の概要〕 ■介護福祉士としての実務経験のある教員が、その経験を活かして、演習室等での実地指導を通じ、衣食住から生活支援を捉える視点を養成する科目である。 介護演習室での演習を中心に、各自目標及び計画の作成と実践及び評価・課題を記録し意図的な実践能力を養う。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 1. 各支援技術の習得とともに、ICF の視点にもとづくアセスメントから支援方法を理解し実施できる。					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1～2	〃振り返り		①授業の内容について ②1年次の習得内容確認(シーツ交換・体位交換)		
3～4	睡眠・移動の介助〃		シーツ交換確認テスト(1年次の振り返りテスト)		
5 ↓ 10	移動の介護		①移動・移乗の介護の基本的理解(ベッド・床) ②体位変換 ③安楽な体位を保持する介助 ④車いす介助 ⑤移動・移乗のための道具・用具 ⑥歩行の介助		
11～12	「指導」授業		1年生へシーツ交換の技術指導を行い、指導方法から「伝える力」を考えて行く		
13 ↓ 16	入浴・清潔保持の介護		①入浴の介助 ②部分浴の介助 ③清潔保持の介助 ④入浴・清潔保持のための道具・用具		
17～18	食事の介助		①食事の介助 ②誤嚥・窒息の防止 ③脱水の予防 ④食事のための道具・用具		
19～20	排泄の介助		①排泄の介助 ②排泄のための道具・用具		
21	終末期の介助		①終末期における介助 ②危篤時の介助 ③介護職、家族への支援の実際 ④他職種の役割と介助		
22	睡眠の介助		①安眠の介助の基本的理解 ③睡眠の介助と、薬の知識		
23～24	認知症の人にに応じた生活支援		①認知症介護の基本視点 ②若年性認知症の人への介護 ③認知症介護における生活支援の展開		
25 ↓ 28	振り返り		実習Ⅱを振り返り ①苦手項目、実習期間で課題が残った項目の再確認 ②卒業試験に向けて		
29～30	科目のまとめ		学習のまとめ・総合評価(①筆記試験・②実技試験)		
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 7「生活支援技術 Ⅱ」 最新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術 Ⅰ」 「介護福祉士国家試験実技試験のチェックポイント」中央法規出版			〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:出席 45%、筆記試験 25%、課題レポート等提出物等 30%を総合的に評価する。		
〔参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 9「介護過程」中央法規出版					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 介護過程 II		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 新良 典子	
〔授業の回数〕 30回		〔時間数〕(単位数) 60時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
				〔配当学年・時期〕 2年次 前期	
〔授業の目的・ねらい〕 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を実践的に展開し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。同時に、ICF の視点から思いや生活課題を汲み取る感性や想像力を身につける学習としたい。					
〔授業全体の内容の概要〕 ■介護福祉士・社会福祉士としての実務経験のある教員がその経験を活かし、客観的で科学的な思考過程、介護福祉士の専門性を養成する科目である。 授業は、講義・グループディスカッション・事例検討などを通して「介護過程の展開」方法を理解できるように指導する。また、様々な利用者事例やアセスメント手法(作画で利用者のポジティブ面や想いを想像するなど)を使用し、想像力を発揮して学習に臨めるよう運営する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 1. 利用者が望む生活を実現するための、専門知識を活用した客観的で科学的な思考過程である「介護過程」の意義や目的、使用される専門用語を理解している。 2. 利用者の全体像を個別的に捉えて、自立支援・快適・安全の視点から生活課題や潜在能力を見出し、利用者のよりよい生活実現へむけて「根拠に基づく介護」の実現、課題解決アプローチのサイクルに基づいて実践的に展開することができた。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1 ↓ 4	「介護過程の展開」の基礎的理解			分析(情報の解釈・関連づけ・統合化)に至る前のアセスメント作業を行い、アセスメントシートを作成する。	
5	オリエンテーション・介護過程 I の振り返り			学習ガイダンス・介護過程 I を振り返る。ロジカルシンキングやスタンダードである課題解決アプローチのサイクルと用語・様式の把握について学習する。	
6 ↓ 7	アセスメントの実際(事例①)			ケースアセスメント演習を通して観察の視点、ICF の視点及び介護過程の様式への記述方法を学ぶ。アセスメント(分析)－課題抽出	
8 ↓ 13	介護過程展開の実際(事例①)			アセスメント(分析)－課題抽出-計画作成を通して利用者の生活と介護過程の展開を考える。(グループ演習) 計画の発表・共有を実施し、尊厳、利用者主体、QOL、潜在能力など、多角的で柔軟な視点を形成する。	
14 ↓ 18	アセスメントの実際(事例②)			分析(情報の解釈・関連づけ・統合化)に至る前のアセスメント作業を行い、アセスメントシートを作成する。(グループ演習) ※作画で利用者のポジティブ面や想いを想像する。 ケースアセスメント演習を通して観察の視点、ICF の視点及び介護過程の様式への記述方法を学ぶ。	
19 ↓ 22	介護過程展開の実際(事例②)			アセスメント(分析)－課題抽出-計画作成を通して利用者の生活と介護過程の展開を考える。(グループ演習) 計画の発表・共有を実施し、尊厳、利用者主体、QOL、潜在能力など、多角的で柔軟な視点を形成する。	
23	モニタリング・評価の実際①			評価の目的と評価の内容、方法を学ぶ。	
24	モニタリング・評価の実際②			目標設定(特に短期目標)の重要性を理解する。	
25	介護過程の実践的展開(実習事例)①			実習期間中に展開する実践ケースのアセスメント(分析)－課題抽出-計画作成を行う。(帰校日指導)。	
26	介護過程の実践的展開(実習事例)②				
27	介護過程の実践的展開(実習事例)③				
28 ↓ 29	「介護過程の展開」実践過程の振り返り			介護実習Ⅱでの学生自身の「介護過程の展開」実践過程を振り返る。実践した介護過程の展開の概要を報告する。	
30	科目のまとめ			基礎知識が習得できているか振り返るとともに、総合評価・学習のまとめを行う。	
〔使用テキスト〕 最新・介護福祉士養成講座 9「介護過程」 中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 出席 10%、授業への取り組み姿勢 20%、授業内課題レポート等提出 70%を総合的に評価する。	
〔参考文献〕 自主作成資料					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 介護過程 III		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 富田 琢磨	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(1単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 2年次 後期					
〔授業の目的・ねらい〕 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開する総合力を養う学習とする。また、スタンダードである課題解決アプローチのサイクルに基づいて、適切な介護サービスの提供を思考できる能力を身につける学習とする。					
〔授業全体の内容の概要〕 ■介護福祉士・社会福祉士としての実務経験のある教員がその経験を活かし、客観的で科学的な思考過程、介護福祉士の専門性を養成する科目である。 講義・グループディスカッション・事例検討などを通して「介護過程の展開」方法を理解できるように指導する。また、様々な利用者事例や実習実践事例を使用して、想像力を発揮して学習できるよう運営する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 ①利用者が望む生活を実現するための、専門知識を活用した客観的で科学的な思考過程である「介護過程」の意義や目的、使用される専門用語を理解できる。 ②介護過程の展開に必要な知識と技術を身につけ、専門職の一員として多職種との連携を意識できる。 ③利用者の全体像を個別的に捉えて、自立支援の視点から生活課題や潜在能力を見出し、利用者のよりよい生活実現へむけて「根拠に基づく介護」を展開していくことを意識できる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	オリエンテーション			介護実習Ⅱでの学生自身の「介護過程の展開」実践過程を振り返る。 実践した介護過程の展開を現段階でまとめ、報告する。	
2	「介護過程の展開」実践過程の振り返り				
3	「介護過程の展開」の基礎的理解①			ロジカルシンキング・ スタンダードである課題解決アプローチのサイクルと用語・様式の把握について	
4	「介護過程の展開」の基礎的理解②				
5	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開①			(アセスメントー計画ー実践ー評価ー再計画)事例を通して利用者の生活と介護過程の展開を考える。	
6	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開②				
7	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開③			介護過程の理論と実習体験を通して、様々な利用者の「よりよい生活」「よりよい人生」のあり方を、介護過程の展開を通して理解する。	
8	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開④				
9	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開⑤			○様々な利用者事例 ○学生担当ケース	
10	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開⑥				
11	介護過程の展開における多職種協働の意義①			グループディスカッション、チームカンファレンス等の模擬体験を通して、多職種協働の意義を理解する。	
12	介護過程の展開における多職種協働の意義②				
13	介護過程の展開における多職種協働の意義③			(アセスメントー計画ー実践ー評価ー再計画)事例を通して利用者の生活と介護過程の展開を考える。	
14	介護過程の展開における多職種協働の意義④				
15	科目のまとめ			知識が習得できているか振り返るとともに、総合評価・学習のまとめを行う。	
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座9「介護過程」 中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:出席 10%、授業への取り組み姿勢 20%、授業内課題レポート等提出 70%を総合的に評価する。	
〔参考文献〕 自主作成資料					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 介護総合演習Ⅲ		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 新良 典子	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(1単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
				〔配当学年・時期〕 2年次 前期	
〔授業の目的・ねらい〕 長期間に渡る介護実習Ⅱ(高齢者入所施設)の教育効果を高めるため、実習に臨むための準備を行うとともに、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。					
〔授業全体の内容の概要〕 ■介護福祉士としての実務経験のある教員がその経験を活かして、実習効果を高めるために必要な知識や技術を養成する科目である。 ①実習Ⅰの振り返りから自己の課題を明確化し、実習Ⅱへ効果的に臨むための準備を行う。 ②生活支援技術等の演習で学んだことが具体的に実習において展開できるよう、学生の学習到達状況に応じた指導を行う。 ③介護福祉士の専門性である「介護過程」を適切に展開していくために、具体的手法及び他者理解、多角的視点などを意図して学びを導く。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 1. 実習の様々な学習経験を前向きに捉え、かつ自己の実践内容を分析・考察することができ、表明することができる。 2. 介護過程を展開し、対象者の心身の状況に応じた生活支援のあり方を理解できる。 3. 24時間にわたる介護福祉士の生活支援・役割・連携について理解できる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	介護実習Ⅱオリエンテーション			・前年度実習の振り返り ・実習の意義と目的(ねらい)、目標・内容の確認 ・事業所が求める望ましい実習生の姿勢について	
2	実習事前訪問オリエンテーションへ臨む準備①			・提出物(誓約書・健康診断書・個人調書等)の確認	
3	実習事前訪問オリエンテーションへむけた準備②			※特に介護実習計画書の作成 ・実習事業所・利用者の理解(根拠・サービスの意義等)	
4	実習事前訪問オリエンテーションへむけた準備③			・事前訪問オリエンテーション実施要綱の配布と確認事項	
5	実習事前訪問オリエンテーションへむけた準備④			・提出物(誓約書・健康診断書・個人調書等)の確認 ・訪問前電話連絡	
6	実習事前指導①			・事前訪問オリエンテーション報告と共有 ・実習簿の記入要領について①	
7	実習事前指導②			・実習実施計画書・実習簿の点検と記入	
8	実習事前指導③			・実習の心得の再確認	
9	実習出発式			・実習へ意欲的に臨むために、出発式を通じて不安の軽減や意欲・情熱の増進を図る。	
10	実習中指導(帰校日)			・実習巡回で進捗状況の確認及び適宜指導を行う。 ・実習日程、反省会(中間・最終)の実施方法及び日時の確認。 ・介護過程進捗状況の確認 ・反省会運営について ・その他支援技術獲得状況、相談、指導等。	
11	実習事後指導①			・実習で捉えた学びの共有	
12	実習事後指導②			・実習記録の再確認・整備・修整①	
13	実習事後指導③				
14	実習事後指導④			・介護実習報告会へ向けた打ち合わせ (ねらい・テーマ・作業工程・役割分担など)	
15	科目のまとめ			・実習全体を通じた自己評価・科目のまとめ	
〔使用テキスト・参考文献〕 最新 介護福祉士養成講座 10 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C)69点～60点 4. 評価方法:出席・授業への取り組み姿勢 30%、課題・レポート等提出物 70%を総合的に評価する。	
〔参考文献〕 自主作成資料・参考資料					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 介護総合演習Ⅳ		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 新良 典子	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(1単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 2年次 後期					
〔授業の目的・ねらい〕 2年間の介護実習Ⅰ・Ⅱの教育効果を高めることを目的とする。 ①事例報告会の開催を通して、改めて実習で捉えた学びを振り返り、知識・技能及び介護過程の展開能力等の定着を図る総合的な学習とする。 ②学生が主体となっていく体験授業の展開を通じて、養成教育において習得してきた知識や技術の定着を図るとともに、改めて学生自身が福祉・介護の仕事の意義を捉える学習とする。					
〔授業全体の内容の概要〕 授業全体を通じて、学生の主体的な活動(チームケア及び協働をイメージしながら)を基本として進行する。企画から実施におけるプロセスにおいては、その目的や方向性及び実施方法等が職業倫理等に則しているか、適宜指導をかけながら運営する。体験授業の展開においては、学生が捉えている「介護の魅力」に焦点をあて、楽しく創造的な演出が生み出せるよう進行する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 1. 介護過程の展開の意義や目的を理解している。 2. 実習における自己の実践内容を分析・考察することができ、展開したケアの根拠を説明できる(プレゼンテーション)。 3. 介護福祉士の職務(生活支援・役割・連携等)や仕事の意義について理解している。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	実習報告会開催へ向けた準備①			■開催要項・実施計画に基づき、クラス全体の協働のもと開催準備を行う。学生実行委委員を中心に主体的に運営する。 ○当日のプログラム ○受付簿・参加者数の把握 ○招待状およびお礼状作成班・「招待」の電話連絡 ○資料準備(資料及びデータ回収・印刷・資料製本) ○校内ポスター作成・設置 ○リハーサル日時の調整と会場調整 ○会場準備(本番直前) ○駐車場の確保 ○その他	
2	実習報告会開催へ向けた準備②				
3	実習報告会開催へ向けた準備③				
4	実習報告会開催へ向けた準備④				
5	実習報告会開催へ向けた準備⑤				
6	実習報告会開催へ向けた準備⑥				
7	実習報告会リハーサル運営			■リハーサル運営を通じて現状の課題を確認し本番に備える。	
8	実習報告会の開催と運営(2日間)			■介護実習報告会を主体的に開催・運営する。 ①第三者(在校生・内外教員・実習指導者など)への報告会開催を通じて、実習Ⅱ及び介護過程の展開における学びを自らの知識・技術として定着させる。 ②後輩に先輩学生の成長の過程を見せることで、今後の学習展開を想像させ、意欲喚起を図る。	
9					
10					
11					
12					
13					
14	実習報告会の総括と振り返り・まとめ			■介護実習報告会の開催を終えて、各担当から報告を行う。残された課題、将来の展望などレポート作成を通して総括を行う。	
15					
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 「介護過程」「介護総合演習・介護実習」中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C)69点～60点 4. 評価方法:授業参加度、制作物、レポート等提出物を総合的に評価する。	
〔参考文献〕 自主作成資料					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 介護実習Ⅱ（高齢者入所施設）		〔授業の種類〕 実習		〔授業担当者〕 新良 典子	
〔授業の回数〕 25日間		〔時間数〕(単位数) 200時間(5単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 2年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 介護実習Ⅰを通じて学習できた事と、カリキュラムの各領域で取得した知識と技術の統合を図り、利用者理解と生活支援技術の習得を図る。また、介護過程の展開を通し個々のニーズに応じたその人らしい生活のための支援能力を習得する。					
〔授業全体の内容の概要〕 高齢者入所施設における実地学習において、実習指導者をはじめとした介護職員からの指導のもと、心身の状況に応じた生活支援技術の習得を図る。また、実際の利用者を受け持ち介護過程の一連の流れを展開することで根拠に基づく介護実践を理解する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 ①利用者に応じた基本的介護技術を習得する ②多職種との連携について学ぶ ③利用者の心身の状況に応じた生活支援のあり方を理解する ④介護過程の展開を実践し、評価、計画の修正と、その記録が出来る ⑤夜間業務を経験し、夜間の介護福祉士の役割・連携について理解する					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 10 「介護総合演習・介護実習」 中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:実習態度、専門的実践能力、実習記録、レポート等提出物を総合的に評価する。	
〔参考文献〕 作成資料					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 発達と老化の理解 II		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 照屋 裕子	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 2年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 老化に伴う身体的、心理的、社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。					
〔授業全体の内容の概要〕 老化に伴う身体的機能低下、認知機能低下が生活に与える影響の変化と、関連してくる社会的資源の活用等を概説する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 高齢、老化に伴う各機能の低下による日常生活の変化、対応するケアを理解している。					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1	オリエンテーション		学習ガイダンス、授業概要説明		
2	老年期の特徴と発達課題		老化に伴い、終活について考える		
老化に伴う身体機能・外見上の変化と日常生活への影響					
免疫機能の変化・感覚機能の変化と日常生活への影響					
3			咀嚼機能・消化機能・循環器機能・呼吸機能の変化		
4	老化にともなうこととからだの変化と生活		筋・骨・関節の機能の変化		
泌尿器・生殖機能の変化					
体温維持機能の変化					
5			老化に伴う津液的機能の変化と日常生活への影響		
			記憶機能の変化・認知機能の変化		
6	高齢者と健康		健康長寿に向けての健康 サクセスフル・エイジング、プラダクティブエイジング、アクティブエイジングなど		
7	高齢者に多い疾患と・症状と生活上の留意点①		複数の疾患がある・非定型的な症状		
閉じこもりと廃用症候群・社会・家庭環境の影響					
演習・高齢者に多い症状・疾患の整理					
8			高齢者の症状・疾患の特徴		
9			高齢者に多い病気とその留意点		
			生活習慣病・骨・関節系の病気		
10	高齢者に多い疾患と・症状と生活上の留意点②		痛み(腹痛・骨・筋肉・関節)		
脳・神経系の病気、めまい・目・耳の病気					
消化器系の病気、体重減少・食欲不振・便秘・下痢					
11			腎・泌尿器・循環器系の病気、しびれ・浮腫(むくみ)		
12			口腔の病気、歯・口腔の病気		
			呼吸器系の病気、咳・痰・息切れ・息苦しさ・誤嚥		
			皮膚の病気、掻痒感(かゆみ)		
			精神の病気、不眠(睡眠障害)		
13			婦人科系の病気		
			出血・熱中症		
			介護保険の特定疾病・慢性疾患		
14	保険医療職との連携		保険医療職とのチームケアの必要性、保険医療職との連携のポイント、他専門職への報告		
15	科目のまとめ		基礎知識が習得できているか振り返るとともに、総合評価・学習のまとめを行う。		
〔使用テキスト・参考文献〕 新・介護福祉士養成講座 8「発達と老化の理解」 中央法規出版			〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 筆記試験、レポート等提出物、授業態度などを総合的に評価する。		
〔参考文献〕 自主制作資料					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 認知症の理解 II		〔授業の種類〕 講義・演習		〔授業担当者〕 神谷 進	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 2年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 認知症の基礎事項を踏まえて、認知症の方の抱える心理面や行動面を理解し、認知症の方へのかかわり方、特に生活支援という視点に重点を置き、認知症の本人と家族が地域で自立した生活を継続するための必要な支援策等を身につける。					
〔授業全体の内容の概要〕 認知症介護指導者、認知症ケアの実務経験のある教員が現場の経験を活かしながら、テキストと実践を結びつけて授業をする。 認知症に係る基礎的事項・認知症の方の抱える心理面や行動面、日常生活の支援について学ぶ。家族への支援の方法、地域の支援体制について解説する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 ①認知症に関する基礎的事項を理解し認知症のケアの実際について演習を通して理解する事ができる。 ②家族介護の現状や家族介護者への支援について理解できる。					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1～7	認知症のケアの実際		・認知症の理解 I の振り返り ・パーソン・センタード・ケアについて学ぶ。(講義・演習) ・認知症の方のケアマネジメント・アセスメント。(講義・演習) ・認知症の人とのコミュニケーション。(講義・演習) ・認知症の人へのケア。(講義・演習) ・認知症の進行に応じた介護(講義)		
8 ↓ 11	事例検討 認知症ケアの実際		演習を通して実際のかかわり方を体験する。(講義・演習) ・認知症の人にかかわる際の基本的な姿勢を学ぶ。(講義・演習) ・認知症の人が落ち着いて過ごせるためのかかわりを学ぶ。 ・認知症の人と環境について。(講義・演習)		
12	認知症の人の地域生活支援		・認知症の人が地域で暮らすために必要な資源を学ぶ。 ・具体例を通して地域におけるサポート体制を学ぶ。 ・チームアプローチにおける介護職の役割を学ぶ。		
12～13	家族への支援 介護福祉職への支援		・介護者自身の体験から認知症本人の気持ちを知り、家族とのかかわり方を考える。 ・家族へのレスパイトケアについて学ぶ。 ・家族間の連携及び家族会の役割について学ぶ。		
14	振り返り		認知症の基本的事項について振り返る。		
15	認知症の理解についての全体の振り返り		これまでの学びをまとめ、テストで確認する。		
〔使用テキスト・参考文献〕 新・介護福祉士養成講座 12「認知症の理解」 中央法規出版			〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 筆記試験 70%、出席状況、授業態度 20%、提出物 10%		
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 障害の理解 II		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 新良 典子	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 2年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。また、地域のサポート体制の理解、また、本人のみならず家族への支援方法を習得する。					
〔授業全体の内容の概要〕 障害のある人に対する介護、連携と協働、家族への支援について概説する。また、実践現場における実務経験に基づく内容を紹介することで障害のある方及びその家族への共感的理解につなげる。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 「障害者が地域で普通に暮らすことのできる社会づくり」を考えることができる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	障害のある人に関する基礎的知識 (1年次学習の振り返り)			*他己紹介(学生の側から) ・専門用語の振り返り ・障害福祉サービスの理解	
2					
3					
4					
5	地域におけるサポート体制の確立(構築)に向けて 保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携 (チームアプローチ)			・障害福祉サービスの提供のしくみ ・地域におけるサポート体制 ・障害福祉サービスの提供のしくみ ・連携 ・チームアプローチとは	
6					
7					
8					
9	地域におけるサポート体制				
10	家族支援とは何か 家族の状態の把握と介護負担の軽減			・家族支援の視点 ・「障害の受容」と家族 ・家族を取り巻く社会環境について ・レスパイトサービスの課題 ・障害のある人の家族を支えるために必要なこと	
11					
12					
13					
14					
	科目修了試験				
15	科目試験の振り返り・科目のまとめ			基礎知識の習得ができているか振り返るとともに、総合評価・学習のまとめを行う。	
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 14「障害の理解」 中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:提出物、発表、授業態度、出席率を総合的に評価する。	
〔参考文献〕 沖縄県発達障害者支援センター発行 『新サポートノートえいぶる』					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 こころとからだのしくみ II		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 照屋 裕子	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 2年次 後期					
〔授業の目的・ねらい〕 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービス提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。					
〔授業全体の内容の概要〕 授業は、人間の心身の基本的なしくみ、利用者の排泄、睡眠、死に行く人の生活を支える介護実践(生活支援技術)と関連させながら概説する。授業後半においては、グループワークや学生個人の調査研究によるプレゼンテーション・発表を通して、学習理解を深める。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 1. テキスト該当範囲の基礎的知識・専門用語について理解することができている。 2. こころとからだの変化が排泄、睡眠等へ及ぼす影響について一部説明できる。 3. 死に行く人に関連するこころとからだの変化を一部説明できる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	排泄に関連したしくみ①			排泄のしくみについて学ぶ。	
2	排泄に関連したしくみ②			心身の機能低下が排泄に及ぼす影響を理解する。	
3	排泄に関連したしくみ③			排泄に関連する変化の気づきと対応を理解する。	
4	睡眠に関連したしくみ①			睡眠のしくみについて学ぶ。	
5	睡眠に関連したしくみ②			心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響を理解する。	
6	睡眠に関連したしくみ③			睡眠に関連する変化の気づきと対応を理解する。	
7	死にゆく人に関連したしくみ①			「死」を理解する。	
8	死にゆく人に関連したしくみ②			終末期から「死」までの変化と特徴を理解する。	
9	死にゆく人に関連したしくみ③			「死」に対するこころの変化等について理解する。	
10	死にゆく人に関連したしくみ④			終末期等における医療職との連携ポイントを学ぶ。	
11	生死観の多様性			生死感についてグループ協議を行い、理解を深める。	
12				生死感についての個々の考えや思い、それに関連する知識や技術など、調べ学習からプレゼンテーションを通して学習する。	
13					
14					
15	科目のまとめ			基礎知識が習得できているか振り返るとともに学習のまとめを行う。	
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 11 「こころとからだのしくみ」中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:筆記試験、課題レポート提出等を総合的に評価する。	
〔参考文献〕 自主作成資料					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 医療的ケアⅡ		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 田中 見栄晴	
〔授業の回数〕 24回		〔時間数〕(単位数) 36時間(2単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 2年次					
〔授業の目的・ねらい〕 介護福祉士が行う医療的ケアの範囲を理解し、医療職との連携のもと医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する 〔授業全体の内容の概要〕 ※実務経験のある教員による授業 基本研修（講義形式・実時間で 50 時間以上）と基本研修修了者に対して既定の医療的ケア（喀痰吸引等）及び救急蘇生法の演習を規定回数以上行う。 〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 1. 呼吸のしくみと息はたらきを理解し、安全に痰の吸引が提供できる重要性について理解する。 2. 消化器系のしくみと息はたらきを理解し、安全に経管栄養が提供できる重要性について理解する。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	・医療的ケアⅡオリエンテーション ・医療的ケアⅠの振り返り ・呼吸のしくみとはたらき			・シラバスを通し授業の流れを理解する。 ・医療的ケアの制度について振り返る。 ・呼吸のはたらき、肺の解剖生理について学ぶ。	
2	・いつもと違う呼吸状態			・呼吸数、呼吸音、呼吸の仕方、呼吸苦について学ぶ。	
3	・喀痰吸引とは			・喀痰吸引について、痰の性状について学ぶ。	
4	・人工呼吸器と吸引			・人工呼吸器について、人工呼吸器の使用時の注意点について学ぶ。	
5	・子どもの吸引について ・吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意			・子どもの吸引についての注意点について学ぶ。 ・吸引を受ける、利用者や家族の気持ちについて学ぶ。 ・医療的ケア児に対するケアの動画を参考にイメージし学ぶ。	
6	・呼吸器系の感染と予防（吸引と関連して）			・喀痰吸引時の感染の原因、感染予防について学ぶ。	
7	・喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認			・喀痰吸引時に想定されるトラブルと対応事例について学ぶ。	
8	・急変・事故発生時の対応と事前対策			・急変時の対応についての報告、連絡、相談について学ぶ。	
9	喀痰吸引実施手順解説①			・喀痰吸引で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔保持について学ぶ。 ・吸引の技術と留意点について学ぶ。 ※実習室でモデル人形を使用し実施。	
10	喀痰吸引実施手順解説②			・喀痰吸引に伴うケアについて学ぶ。 ・喀痰吸引についての報告および記録について学ぶ。 ※実習室でモデル人形を使用し実施。	
11	・消化器系のしくみとはたらき			・消化器系のはたらき、消化器系の解剖生理について学ぶ。	
12	・消化・吸収とよくある消化器の症状			・よくある消化器症状を学ぶ。	
13	・経管栄養とは ・注入する栄養剤に関する知識			・経管栄養が必要な状態、経管栄養のしくみと種類について学ぶ。	
14	・経管栄養実施上の留意点			・経管栄養で起こりうるからだの異変について学ぶ。	
15	・子どもの経管栄養について			・経管栄養を必要とする子供について学ぶ。	
16	・経管栄養に係る感染と予防			・経管栄養を行っている人の消化器感染、感染予防について学ぶ。	
17	・経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 ・経管栄養により生じる危険、注入後の			・利用者、家族の経管栄養に対する気持ち、実施に関する説明と同意について学ぶ。 ・経管栄養時にそういわれるトラブルと対応事例について学ぶ。	

	安全確認	
コマ数	授業のテーマ	授業の内容
18	・急変・事故発生時の対応と事前対策	・急変時の対応についての報告、連絡、相談につて学ぶ。
19	経管栄養実施手順解説①	・経管栄養(胃ろう・腸ろう・経鼻経管栄養)で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔保持について学ぶ。 ・経管栄養(胃ろう・腸ろう・経鼻経管栄養)の技術と留意点について学ぶ。 ※実習室でモデル人形を使用し実施。
20	経管栄養実施手順解説②	・経管栄養(胃ろう・腸ろう・経鼻経管栄養)に必要なケアについて学ぶ。 ・経管栄養(胃ろう・腸ろう・経鼻経管栄養)についての報告および記録について学ぶ。 ※実習室でモデル人形を使用し実施。
	科目筆記試験(20コマ終了時を予定)	科目試験(筆記試験)
21	科目試験の振り返り・科目のまとめ	・科目試験の採点と解説を行い、終了時の到達課題
22	喀痰吸引実施手順解説①(振り返り) 喀痰吸引実施手順解説②(振り返り)	・喀痰吸引で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔保持について学ぶ。 ・吸引の技術と留意点について学ぶ。 ・喀痰吸引に伴うケアについて学ぶ。 ・喀痰吸引についての報告および記録について学ぶ。
23	経管栄養実施手順解説①(振り返り)	・経管栄養(胃ろう・腸ろう・経鼻経管栄養)で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔保持について学ぶ。 ・経管栄養(胃ろう・腸ろう・経鼻経管栄養)の技術と留意点について学ぶ。
24	経管栄養実施手順解説②(振り返り)	・経管栄養(胃ろう・腸ろう・経鼻経管栄養)に必要なケアについて学ぶ。 ・経管栄養(胃ろう・腸ろう・経鼻経管栄養)についての報告および記録について学ぶ。
[参考文献] 最新 介護福祉士養成講座15 「医療的ケア 第2版」 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:出席、授業態度 30%、筆記試験 70%
[備考] ・救急蘇生法の演習については別日程で実施。		

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 医療的ケアⅢ		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 田中 見栄晴	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間2(単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 2年次					
〔授業の目的・ねらい〕 介護福祉士が行う医療的ケアの範囲を理解し、医療職との連携のもと医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する					
〔授業全体の内容の概要〕 ※実務経験のある教員による授業 基本研修（講義形式・実時間で 50 時間以上）と基本研修修了者に対して既定の医療的ケア（喀痰吸引等）及び救急蘇生法の演習を規定回数以上行う。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 1. 医療的ケアⅠ・Ⅱの学びを適切に技術に活かすことができる。 2. 安全に痰の吸引が提供できる。 3. 安全に経管栄養が提供できる。					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	口腔内喀痰吸引(通常手順)			口腔内喀痰吸引演習	
2	口腔内喀痰吸引(通常手順)			口腔内喀痰吸引演習	
3	鼻腔内喀痰吸引(通常手順)			鼻腔内喀痰吸引演習	
4	鼻腔内喀痰吸引(通常手順)			鼻腔内喀痰吸引演習	
5	気管カニューレ内部の喀痰吸引(通常手順)			気管カニューレ内部の喀痰吸引演習	
6	気管カニューレ内部の喀痰吸引(通常手順)			気管カニューレ内部の喀痰吸引演習	
7	胃ろうまたは、腸ろうによる経管栄養			胃ろうによる経管栄養演習	
8	胃ろうまたは、腸ろうによる経管栄養			胃ろうによる経管栄養演習	
9	胃ろうまたは、腸ろうによる経管栄養			胃ろうによる経管栄養演習	
10	胃ろうまたは、腸ろうによる経管栄養			胃ろうによる経管栄養演習	
11	経鼻経管栄養			経鼻経管栄養演習	
12	経鼻経管栄養			経鼻経管栄養演習	
13	経鼻経管栄養			経鼻経管栄養演習	
14	経鼻経管栄養			経鼻経管栄養演習	
15	まとめ・振り返り			演習のまとめ、振り返り	
〔使用テキスト・参考文献〕 最新 介護福祉士養成講座15 「医療的ケア 第2版」 中央法規出版				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:実技試験	
〔備考〕 ・医療的ケアⅢは演習の為、実習室で行う。					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 ケアセラピー		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 神谷 ゆかり	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(1単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 2年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 タッチセラピーをとおして、ハンドトリートメント・フットトリートメントの実技と理論を学ぶ。また、高齢者や疾患のある方に対しての施術についても学び、予防医学の観点からタッチセラピーを理解する					
〔授業全体の内容の概要〕 ■日本エステティック業協会認定講師かつ日本ケアセラピスト協会認定講師の資格を保有する講師が、指導を行う科目である。その専門的手法を取り入れた演習を通して、タッチセラピーに関する理論、トリートメント技術等を学習する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 ハンドトリートメント・フットトリートメントの施術の際、禁忌事項を守り、圧・強弱・リズム・密着・タオルレーピングが出来ている 疾患のある高齢者のスキンケアの留意点が理解できている 施術のみならず対象者に対するホスピタリティーの心配りができているか確認する					
コマ数	授業のテーマ			授業の内容	
1	ケアセラピスト概論			ケアセラピストの役割とタッチセラピーの理解	
2	皮膚学			皮膚の構造 しくみ 働き/ハンドトリートメント実技	
3					
4					
5	筋肉・骨格			施術の際に触れる筋肉と骨格について学ぶ/ハンドトリートメント	
6	疾患について			高齢者に多い疾患と皮膚トラブルを学ぶ/フットトリートメント	
7					
8	心身生理学/禁忌事項			神経の働き 施術の禁忌事項/フットトリートメント	
9					
10	理論のまとめ			解剖生理学のまとめ	
11	理論のまとめ			フットトリートメントのまとめ	
12	基礎知識・理論の評価			基礎知識・理論の習得確認を行う。	
13	実技評価			ハンド・フットの技術確認を行う。	
14					
	科目筆記試験			科目筆記試験	
15	科目のまとめ			基礎知識、手技が理解できているか振り返るとともに学習のまとめを行う。	
〔使用テキスト・参考文献〕 ケアセラピストハンドテキスト(グロリア21) ケアセラピストフットテキスト(グロリア21)				〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:筆記試験、実技試験、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する	
〔参考文献〕 日本エステティック業協会テキスト 解剖生理学 皮膚科学					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 移動アシスト技術		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 恩河　ひとみ	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(1単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
〔配当学年・時期〕 2年次　後期					
〔授業の目的・ねらい〕 我が国の社会状況の変化に伴い、介護実践現場は今後ICTやものの活用・ノーリフトケアの導入など「次世代型介護」へ移行していくことが求められている。そのような状況下において、現場の中核となる介護福祉士として、その変化に対応できるスキルを身につける学習とする。また、同時に移動支援の技能資格取得を目指す学習とする。					
〔授業全体の内容の概要〕■実務経験豊富な専門講師を招聘しオムニバス形式で運営する科目である。 介護福祉士の専門技術である移動支援技術。実地演習を通して対象者の理解並びに状態や状況に応じた支援方法を修得する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 1. 視覚障害者の移動支援の意義と従業者の姿勢、同行援護の技術を修得している。 2. リフトリーダーの役割と心構え、移動技術を修得している。					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1	視覚障害者(児)の福祉サービス		視覚障害者を支える我が国の制度及びサービス、従業者の支援内容などを学ぶ。		
2	同行援護の制度と従業者の業務				
3	視覚障害・疾病の理解		視覚障害に関する医療的な基礎知識を学ぶ。		
4	障害者(児)の心理		視覚障害を持つ人の心理や障害受容の状態、その環境について理解する。		
5	情報支援と情報提供		点字を始めとする視覚障害分野のコミュニケーション技術や福祉用具・ツール、その他支援方法を学ぶ。		
6	代筆・代読の基礎知識				
7	同行援護の基礎知識		サービス、従業者の支援内容、実施要件など基礎知識を学ぶ。		
8	視覚障害者(児)への移動支援(基本技能)		実地演習を通して、移動支援の基本技能を修得する。		
9					
10	視覚障害者(児)への移動支援(応用)		実地演習を通して、さまざまな状況における移動支援の技能を修得する。		
11					
12	移動支援における福祉用具の活用について		ノンリフトポリシー及び移動介護のアセスメント、機器の種類と特徴を学ぶ。		
13	移動支援機器の操作法		実地演習を通して、移動用リフト等の使用方法、指導方法を修得する。また、機種別の操作方法や相談支援技法についても学ぶ。		
14					
15					
〔使用テキスト・参考文献〕 同行援護従業者養成研修テキスト(中央法規出版) リフトリーダー養成研修テキスト(テクノエイト協会)			〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C)69点～60点 4. 評価方法:出席・授業への取り組み姿勢 40%、科目修了試験 30%、課題レポート提出 30%を総合的に評価する。		
〔参考文献〕 ・自主作成資料 ・参考資料					

授 業 概 要

【2025年度】

〔科目名〕 卒業研究演習		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 新良 典子	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間 (1単位)		〔配当学科〕 ヒューマン介護福祉科	
				〔配当学年・時期〕 2年 後期	

〔授業の目的・ねらい〕

学生が介護福祉学の総括として体験授業の企画準備等の展開を通じて、養成教育において習得してきた知識や技術の定着を図るとともに、改めて学生自身が福祉・介護の仕事の意義を捉える学習とする。また、現段階における自分自身の「介護観」を形成する機会とする。

〔授業全体の内容の概要〕

授業全体を通じて、学生の主体的な活動(チームケア及び協働をイメージしながら)を基本として進行する。企画から実施におけるプロセスにおいては、その目的や方向性及び実施方法等が職業倫理等に則しているか、適宜指導をかけながら運営する。体験授業の展開においては、学生が捉えている「介護の魅力」に焦点をあて、楽しく創造的な演出が生み出せるよう進行する。

〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕

- 体験授業の企画、立案から実施、評価まで個人の役割を果たし、チームで運営できる。
- 他者への伝達技法や基礎的な教授方法を実践できる。
- 福祉社会・介護福祉職の意義を捉え、現段階における自身の介護観を表明することができる。

コマ数	授業のテーマ	授業の内容
1	介護研究の展開とその方法①	○科目の意義と目的（ねらい） ・介護研究の進め方について・過去事例から学ぶこと
2	体験授業の企画構想	○授業計画の作成 ・テーマ、ねらい、プログラム、授業計画、実施要項の作成 ・チーム編成と研究内容のディスカッション ・チーム間共有、タイムスケジュールの理解と確認
3		
4		
5	体験授業の事前準備	○チームで主体的に運営する。 ・具体的実践内容の準備と確認 (教授方法、タイムスケジュール、物品、効果測定法等) ・使用機材準備、実施に向けた調整など。
6		
7		
8	体験授業のリハーサル	リハーサルを実施し、運営の流れの確認を行う。
9		
10		
11	■体験授業の展開（2/24）	第三者へ体験授業を展開する。授業評価を受ける。
12		
13		
14	授業の効果測定及び評価	○体験授業の成果とまとめ ・グループ及び個人の振り返りを行う。 ・アンケート等から効果の測定を行う。 ・体験授業・養成教育を振り返り、将来展望につなげる。
15		

〔使用テキスト・参考文献〕

〔単位認定の方法及び基準〕

- 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく
- 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく
- 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点
- 評価方法:授業参加度、チーム貢献、レポート等提出物を総合的に評価する。

〔参考文献〕